

県立国際中学校に関するQ & A

1 教育課程・学習等について

Q1 中学3年間において、海外研修や留学等のプログラムを予定していますか？

A1 国際高校では現在世界の様々な国や地域の連携校を拡大しているところです。今後、中学生も参加できるプログラムも積極的に企画していく予定です。

Q2 中高一貫教育となりますが、英語以外に第二外国語は教科に入りますか？

A2 中学校は学習指導要領に基づくカリキュラムと平行して国際バカロレア (IB) プログラムを行うため、科目として第二外国語を取り入れることは難しいですが、多様な文化や考えに触れることは国際中学校・高校の核となる部分です。教科等横断的な授業や学校行事などを通して、様々な国の言葉や文化に触れてもらいたいと考えています。

Q3 初年度から、国際バカロレアプログラムに即した学習になりますか？

地域の公立中学校と比べて、学びに関する大きな違い、または特色は何ですか？

A3 現在、MYP (ミドル・イヤーズ・プログラム) の候補校申請に向けて準備を進めています。開校当初は試行期間としてMYPと同様の内容を行います。学習指導要領に基づき、検定教科書を用いて学習しますが、学習の手法は大きく異なり、探究活動を重視したものとなります。また、英語は、教員免許を所有する英語を母語とする教員が担当し、国際高校と同様、少人数・習熟度別の授業が可能となるよう調整を進めています。

Q4 国際高校のiPadを用いた学習について教えてください。

A4 国際高校では、一人一台のiPadを授業や家庭学習で活用し、個々の学習到達度に応じた主体的・協働的な学びを進めています。予習では配信された課題に取り組み、学習動画を視聴するなどして授業に備えます。授業中は授業支援ソフトを用いて、リアルタイムにクラス全員と課題を共有したり、プレゼンテーションを行ったりします。iPadをあらゆる場面で生徒が工夫して活用しています。

Q5 国際高校の英語の授業について教えてください。

A5 国際高校では、少人数・習熟度別で、英語圏の教科書を用いた質の高い授業を行っています。県立高校で唯一、教員免許を所有する英語を母語とする教員が5名在籍し、授業を行っています。プレゼンテーションやディスカッション、エッセイライティングなど多彩な活動で英語力を伸ばしています。

2 学校生活について

Q1 校則はありますか。制服等決まりがありますか？

A1 国際高校では、現在、生徒とともに校則を含めた学校の文化をつくりあげているところです。中学校開校後は中学生にも学校づくりに参画してもらう予定です。制服は国際高校と同じ制服を使用しますが、シャツの色が異なります。

Q2 部活動はどんなものがありますか？

A2 部活動については、現在、高校にある22の部活動のうち、共同実施が可能な部活動を開校後に検討します。国際中学校のカリキュラムでは学習に取り組む時間の確保や地域での課外活動などを行う必要があるため、県教育委員会が策定している「奈良県部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、活動時間を検討します。

Q3 通学方法に決まりはありますか？自転車で通うことはできますか？

A3 特に決まりはありません。国際高校の生徒の多くは、近鉄学園前駅からバス、近鉄学研登美ヶ丘駅から徒歩での通学しています。自転車での通学は申請が必要です。

Q4 給食はありますか？

A4 食事の提供はありませんので、弁当を持参することになります。学校にはパンや弁当などを購入できる売店があります。現在、ミルク給食の実施について検討することを予定しています。

Q5 国際高校と同じ施設を使いますか？

A5 国際高校生と同じ校舎で学校生活をともにします。

Q6 修学旅行はどこに行きますか？

A6 国際高校では、修学旅行ではなく、授業の一環としてシンガポールへのスタディツアーを実施しています。（現在は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため国内に変更。）中学校も、探究活動の一環として、カリキュラムに組み込まれたスタディツアーを実施する予定です。行き先は、学校の教育内容にふさわしい場所を今後選定します。

Q7 上級生がいなくて縦のつながりはどうなりますか。

A7 国際高校生は皆さんの入学を心待ちにしています。国際中学校・高校の教育方針では、縦のつながりをとても大切にしています。探究活動や国際交流、学校行事など、中学生と高校生が協働して学びを深める活動を計画します。

Q8 どのような学校行事がありますか。

A8 体育大会、文化祭などいくつかの行事を検討しています。10月の説明会で概要をお示しします。

3 適性検査について

Q1 奈良県外に住んでいますが、出願することができますか？

A1 中学校入学式の日までに奈良県内に転居する場合は出願できますが、事前に手続きをして承認を得ることが必要です。なお、海外在住者等を対象とした国際選抜では、居住地から通学できる場合、出願を認めます。

Q2 入学者選抜に合格した後、他の中学校へ進学することができますか？

A2 できません。合格した場合は必ず入学することを前提に受験してください。

Q3 入学者選抜に英語は関係しますか？関係があるならどの程度必要ですか？英語を学習塾等で学んでいなくても、小学校で学んだ英語の授業の範囲内で合格できますか？

A3 適性検査3において、個別面接形式で、日本語及び英語によるやり取りを行います。他の適性検査を含め、出題範囲は小学校で学ぶ内容（「小学校学習指導要領」）に基づくものです。

Q4 選考方法などにおいて「英検〇級取得」等の加点はありますか？

A4 検定取得による加点はありません。

Q5 適性検査に向けてどのように勉強すればよいですか？

A5 適性検査1、2では、文章や資料を読む力、自分の考えをまとめて言語で表現する力、筋道を立てて考える力、数理的に処理する力、観察や実験等から課題を解決していく力等をみます。いろいろなことを関連付けて考えたり、考えたことを説明したり文章にまとめたりすることができるよう、日々の授業に取り組んでください。適性検査3では、学ぶ意欲や、思考力、判断力、表現力等をみます。積極的に発言できるよう日々の授業に取り組んでください。

Q6 適性検査のサンプル問題は発表されますか。

A6 サンプル問題はお示ししません。

4 進路・一般的なこと

Q1 国際中学校1期生は高校進学後、IBのDPに基づく学習ができますか？

A1 国際中学校では、MYPの候補校申請に向けて準備を進めています。開校当初は試行期間としてMYPと同様の教育活動を行い、IBの認定を受けた上で正式に実施します。国際高校においても同様にDP（ディプロマ・プログラム）の認定に向けて取組を進めてまいります。DPについては、認定校として認められた後にDPの教育活動を行うことができるため、1期生よりDPを実施できるかどうかは現在のところ確定していません。IB入試の受験やDP資格の取得のためにはDPの履修が必要です。

Q2 中高一貫校ということですが、国際高校の先生が中学校でも教えるのですか？

A2 主に国際高校の教員が中学校の授業を担当します。これにより6年間を見通した計画的、継続的な指導を実現しやすくなると考えています。現在は、国際高校所属の教員が県教育委員会の指導のもと、中学校のカリキュラムを作成しています。教員は、国際バカロレア認定に向けた所定の研修を順次受講します。

Q4 どのくらいの費用がかかりますか？

A4 県立中学校なので、授業料はかかりません。諸経費については、概ね他の公立中学校と同様です。10月の説明会で諸経費の概算をお示しします。

Q5 国際高校における大学進学実績や進路方針について教えてください。

A5 現在、国公立大学や海外大学進学も視野に入れながら1期生が受験の準備をしているところです。課題研究や探究活動を重視した国際高校の教育課程は、総合型選抜など新たな入試制度にも十分対応しています。文部科学省指定のWWLコンソーシアム構築支援事業拠点校として、高大連携を重視し、国際教養大学、大阪公立大学、同志社女子大学との連携協定締結により、探究の学びを充実し、幅広い分野の大学進学に向けて取り組むことを可能にしています。海外大学進学コースでは、株式会社アイエスエイと海外大学進学推薦制度に係る協定を締結し、個別カウンセリングによる進路指導も実施しています。